

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価				
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動や学校行事、生徒会活動等を充実し、生徒の満足度を高める。</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	愛校心を高揚できるように、適切な感染症対策を講じながら、学校行事に生徒が主体的に取り組めるように配慮する。	A	A	今後も適切な感染対策を施しながら、可能な限り各種の学校行事を実施できるように努めていく。		
		②部活動を推進している本校の取り組みに所属生徒の80%以上が積極的である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況及び大会等の成果の確認</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	運動部・文化部の積極的な活動を今後も推進する。	A	A	生徒が活躍できる環境を整備する。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③「授業が分かりやすい」と生徒の80%以上が答えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かい指導の実践</li> <li>授業アンケートによる実態把握</li> </ul>	A	A	生徒の理解度に応じた課題を設定するなど、きめ細かい指導の推進を図る。	A	A	I C T を積極的かつ効果的に活用した授業づくりの研究を行う。		
		④資格取得を学習の動機づけの一つとして奨励し、より高度な資格取得を目指す。		<ul style="list-style-type: none"> <li>検定試験等合格に向けた取組の充実</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	資格取得が将来的にどのよう役立つのかを認識させ、積極的な取り組み姿勢を育成する。	A	A	資格取得に向けた学習を通して、確実な知識・理解の定着を図る。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が75%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導の充実、定期試験対策補習等の実施</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	朝学習や学年補習を行い、学習に躓きのある生徒に対応していく。また、土曜活用による計画的な学習サポートを行う。	A	A	定期試験前の成績不振生徒に対する学年補習を継続し、学習につまづきのある生徒に対しての支援を展開する。		
		⑥授業以外の自主学習の平均時間が、1日1時間以上である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で課題等を工夫し、家庭学習の習慣化を目指した指導の実践</li> <li>定期試験前の学習時間の確保</li> </ul>	A	B	各教科で家庭学習が習慣化できる教材および課題の設定方法を工夫する。	A	A	生徒の実態に合わせた課題を与えることにより、家庭学習の習慣化を目指す。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦学年会議・校務運営委員会・職員会議等において生徒に関する情報交換を行い、教職員間の情報共有、連携強化を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議、学年会議、運営委員会での情報共有</li> <li>アンケート調査</li> </ul>	B	—	各学年、運営委員会、職員会議等で情報交換を行い、共通認識のもと、生徒の支援を行う。	A	—	組織的に業務を遂行する上で、情報共有の必要性を認識し、一枚岩となって対応する。		
		⑧生徒会行事や各種専門委員会など、生徒会活動が充実していると評価した生徒が70%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会・専門委員会の充実</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	生徒が主体となって円滑かつ安全に各種委員会・行事を実施できるように、職員のサポート体制を整える。	A	A	生徒主体の活動を目指し、生徒の支援を教師が行える態勢を充実させる。	
		⑨校内の美化・安全点検を各学期に1回以上実施している。		<ul style="list-style-type: none"> <li>施設委員を活用した校内巡視による点検後、点検一覧表の作成</li> <li>空き教室利用や机イス等の更新</li> </ul>	A	—	定期的に安全点検を実施し、危険箇所の早期発見に努める。校内美化に対する意識付けを行う。	A	—	校内の美化に努め消毒を実施し、新型コロナウイルス感染防止対策を今後も続ける。	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩学校は、いじめ防止や早期発見に向けて取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が85%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケートの実施</li> <li>教育相談アンケートの実施・面接</li> </ul>	A	A	水面下で行われやすいSNSを紹介したいじめを早期に把握するために、アンケートや面談をきめ細かに実施する。日頃から生徒観察に配慮し、小さな変化も見逃さないように留意する。	A	A	いじめと思われる事象が発生した段階で、即座にいじめ防止委員会を開催し、課題解決に積極的かつ迅速に対策を実施する。		
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。		⑪家庭との連携を密にして欠席率・遅刻率が1.0%以下である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な登校時指導、遅刻防止指導の実施</li> <li>保護者への協力・支援</li> <li>欠席・遅刻・早退率の把握</li> <li>朝の10分間読書の実施</li> </ul>	B	—	1学期の終了時点では、欠席率1.2%、遅刻率0.4%、早退率0.3%である。昨年よりも高い数値となっているため、家庭との連携を密に行い、生徒の状況把握に努める。	B	—	2学期の終了時点では、欠席率1.8%、遅刻率0.5%、早退率0.4%である。新型コロナウイルス感染対策として出席停止者が増えているため、家庭との連携を強化する。
				⑫挨拶や服装、遅刻防止指導など学校の生活指導は充実していると感じている生徒が85%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な登校時指導、遅刻防止指導服装指導の実施、保護者への協力および支援</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	毎朝実施している登校時指導と朝読書が遅刻防止につながっている。各職員間での共通認識に基づき、個々の生徒に寄り添った指導を行う。	A	A

※ 自己評価・外部アンケート等：個々の具体的数値項目について評価し、次に従いアルファベットで記入した。

A：数値目標達成、B：約80%達成、C：約60%達成、D：約40%達成

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進路のてびき」の活用及び「進路ガイダンス」や講演会など外部機関との連携による進路指導の充実</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	早期から進路選択をできるような情報提供をホームルームや保護者会等で行う。外部機関を効果的に活用し、鮮度の高い進路情報を提供する。	A	A	外部講師による面接指導や進路ガイダンスを実施し、進路実現に対する意識付け、態度等を備えさせることができるようにする。
		⑭進路通信を年間10回以上発行し、生徒・保護者へタイムリーな情報を提供している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な「進路たより」の発行</li> <li>3学年へは具体的情報を提供</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	「進路たより」を通じて、本校の進路の状況や進路決定に向けての情報提供を行う。	A	A	本校のリアルタイムな進路情報を提供することにより、1年次からのキャリア形成を促す。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について真剣に考えている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>就業体験等によるキャリア教育の充実</li> <li>ホームルーム活動や教科における進路学習の充実</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	学校行事、ホームルーム活動、授業等の学校生活全体をとおして、職業や自らの生き方に関わる学習を様々な場面において展開していく。	A	A	昨年度同様、コロナ禍により就業体験が実施不可能となり実際の職業を体験する機会を得られなかった。代替となる学習活動を考える。
		⑯進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の充実</li> <li>早期の進路目標設定と個に応じた指導の実践</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	1年次から進路に対する意識付けを授業やホームルーム活動等、学校生活全体をとおして行っていく。	A	A	生徒一人一人の進路希望を丁寧にくみ取り、個に応じた指導を進路指導部と学年、担任が連携して行う。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰学年別保護者会に積極的に参加している保護者が95%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年保護者会等、PTA主催行事への積極的な参加及び行事内容等の充実</li> <li>ホームページの充実</li> <li>地域社会への情報提供</li> <li>地域との文化祭やカルチャー講座等を通じた交流</li> </ul>	A	B	第3学年の保護者会出席率は95.2%であった。同様に第1学年は88.3%であった。参加の必要性を感じてもらえる情報提供の在り方を探ると同時に、新しい生活様式の考えに基づき、オンライン形式での開催の実現方法を検討する。	B	B	コロナ禍による各種イベント等の中止に伴い、地域との連携が希薄になり、外部への情報発信が難しくなった。Webページをリニューアルして学校の様子を素早く公開することで広く学校の活動を知ってもらう。
		⑱学校説明会、オープンスクール、保護者参加事業等で学校の教育活動を理解できたと感じる参加者の割合が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化部及び運動部を中心とする各種カルチャー教室の充実や地域諸行事への積極的参加</li> <li>桐商たよりの配布</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	徐々に学校説明会やオープンスクール、地域行事等が例年どおり行えるようになり、学校の魅力を伝える機会が増加してきた。それぞれの行事において、本校の良さを伝えていく。	B	A	行事が軒並み中止となり、本校の魅力を発信する機会が減少した。それを補うために、「桐商たより」を毎月定期発行し、魅力発信に努める。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ICTを活用した授業に、生徒の80%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な授業への取り組みを目指した指導の実践</li> <li>ICT活用に係わる研修の実施</li> <li>校内研修テーマに基づいた授業研究の実践</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	B	2学期から全学年において一人一台端末となり、ICTを活用した授業を行える環境が整った。ICT機器を適時に活用することによる生徒の理解の促進および定着を図る。	A	A	2学期以降全学年において一人一台端末となり、各授業において積極的に活用している。ICTのさらに効果的な活用方法・活用場面を念入りに検討する。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑳ふれあいメールや本校Webページを活用した通知に、生徒・保護者の80%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>書面と併用することによる情報到達率の引き上げ</li> <li>ふれあいメールへの登録率向上</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	A	A	学校Webページをリニューアルし、今まで以上に情報到達率を上昇させることができている。頻繁な更新に努め、情報の鮮度にこだわった発信を行っていく。	A	A
		㉑校内ネットワークを活用した生徒情報や教材等の共有により、業務が効率化されたと感じている職員が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムの充実</li> <li>適切な権限付与によるフレキシブルなネットワーク活用</li> <li>アンケートによる調査</li> </ul>	B	—	校務支援システムや校内ネットワークの効率的な利活用による継続的な業務改善を推進していく。	B	—	校内LANを活用した情報共有の在り方、会議におけるペーパーレス化等、ICTの積極的、効果的活用を進める。

※ 自己評価・外部アンケート等：個々の具体的数値項目について評価し、次に従いアルファベットで記入した。

A：数値目標達成、B：約80%達成、C：約60%達成、D：約40%達成